古文書解読自習プログラム　初級レベル４

# アツカプ　ーアイヌの衣服ー

出典である「蝦夷常用集」はアイヌの生活、産業、家屋・器具の製法などについての図説。イナヲの部、トイタの部、チッフの部、アツシカルの部、ウカルの部、チセカルの部で構成され、「蝦夷産業図説」、「蝦夷生計図説」などの異名がある。

解読文

ハギ皮
アツカプノ図
アツトシを製するには夷語にヲビウといへる木の皮を剥て
それを糸となし織ことなり。また、ツギシヤニといへる木の皮を
用る事あれとも衣になしたるところ輭弱にして、久しく
服用するにたへさるゆへ、多くはヲビウの皮のみをもち
ゆることなり。ここに図したるところは、すなはちヲビウ
のかわにして、山中より剥きたりしまゝのさまを録せる
なり。これをアツカブと称する事はすへてアツトシに
織る木のかわをさしてアツといひ、カブはたゝの木の皮
のことにてアツの木の皮といふことなり。このヲビウと云る
木は、うみべのやまにはすくなくして、おほくは沢山窮
谷の中にあり。夷人これをたつねもとむる事、もつ
とも艱難のわさとせり。もつはら厳寒積雪の頃
にいたりて山中の遠路ことくくにうつもれ高低崎
嶇たるところも平になり、歩行なしやすきときをまちて
深山にいり、幾日となく山中に日をかさねてたつぬる
ことなりと。その外夷人男女とも、平日何事につきても
山中にいる事あれは、いつもこゝろにかけてこの木を
たつぬるを　＊　のならひとす。もしたつねうる

ときは、こと〳〵くに皮を剥てその麁皮をさり、
中の糸筋の通りよきところをえらひとるなり。
　ヲビウの皮は麁皮をさり指をもていくつにもさく
　ときは麻のことくにさくるものなり
これをいとになさむとするにそのままにては皮強
くして糸になしかたきゆへ、温泉にひたしてやわらかに
なす事後の図のことし

語句

ヲビウ…おひょう。ニレ科ニレ属の落葉広葉樹。

輭弱（なんじゃく）…弱々しいこと。

沢…深の誤記か。他の写本では深山となっている。

遠…逕の誤記か。

崎嶇（きく）…山道の険しいこと。道の平らでないこと。

＊他の写本では「もてそ」の文字が入り、「尋ぬるを以てその習いとす」との文章となっている。

参考文献

『日本庶民生活史料集成　第四集　探検・紀行・地誌　北辺篇』　三一書房　１９６９年
『蝦夷生計図説』　北海道出版企画センター　１９９０年